

杏仁



杏仁(きょうにん)は、杏(あんず)の種子の中にある仁(さね)を取り出したものであり、長さは1.1~1.5mmで形状は扁平の先の尖った卵円形である。

杏仁は、三国時代(3世紀)頃に編纂された最古の漢方薬書『傷寒論』に既にその記載がある。また麻黄湯や大青竜湯などの重要な漢方に処方されており、鎮咳剤として用いられている。なお杏仁に水を加えて蒸留したものを[杏仁水](#)と呼ぶ。